

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H24.5.1	4丁目1番館	女	88	4	転倒事故	居室のポータブルトイレ横にて転倒。「左大腿骨頸部骨折」にて入院となる。	①介助方法、転倒の再発リスクについて部署会議にて検討する。 ②同様に転倒の危険性がある顧客について、個別ケア記録・支援記録を見直し、必要な情報をモニタリング調書に転記・修正を行う。そのモニタリング調書を基にサービス計画を策定する。
H24.5.8	通所介護	女	86	4	転倒事故	便所出入り口付近でバランスを崩し、しゃがみこんだ。「右大腿骨頸部骨折」にて入院となる。	①転倒の危険性がある顧客についてアセスメントを実施し、サービス計画の策定を行う。 ②見守りに対する職員指導を実施し、職員間の力量向上を図る。
H24.5.9	5丁目2番館	女	89	4	転落事故	ベッドより転落。「右大腿骨骨折」にて入院となる。	①介助方法、転落の再発リスクについて部署会議にて検討する。 ②転倒・転落のリスクのある顧客に対しての個別ケア記録を整備し、モニタリング調書・サービス計画書を作成する。
H24.5.22	3丁目3番館	-	-	-	物品破損事故	吸引瓶を落とし破損させた。	①瓶を洗う時は取手と瓶の底を持ち、両手で支えながら清掃する。 ②吸引瓶を取り外す時には取手部位のネジが緩んでいないか、外れる可能性がないのかを確認する。 ③吸引瓶清掃について清掃時留意点を話し合い、再発防止に努める。
H24.5.31	3丁目1番館	女	97	4	転倒事故	居室で転倒。「左外眼角外側裂傷」にて、縫合処置施行。	①介助方法・転倒の再発リスクについて部署会議にて検討する。 ②同様に転倒の危険性がある顧客については個別ケア記録表に入力し、モニタリング・サービス計画策定につなげる。
H24.6.7	4丁目2番館	女	60	5	転倒事故	ソファから立ち上がった時バランスを崩し転倒。「左大腿骨頸部骨折」にて入院となる。	①事故の概要と原因について職員に周知し、顧客の状態の変化に対する対応を部署会議にて検討する。 ②転倒の危険性のある顧客については個別ケア記録表に入力し、モニタリング・サービス計画策定につなげる。
H24.6.13	豊後3階	女	78	5	骨折事故	何らかの負荷がかかり、「左大腿骨頸上骨折」にてギプス固定施行。	①医師の許可がある迄はリクライニング式車椅子で対応し、移乗は2人介助で行う。入浴は2人介助でチェアインバスにて行う。 ②臥床時は定期的に巡回し、危険な動き等ない様見守りを行う。良肢位を保つ為、下肢の下に援助するクッションの位置確認を行ない安静を確保する。 ③介助方法、骨折の再発リスク等について部署会議にて検討する。 ④同様の介護事故が発生する事のない様、危険性等を個別ケア記録表に入力し、モニタリング・サービス計画策定につなげる。

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H24.6.24	3丁目1番館	-	-	-	設備破損事故	エレベーター内の表示板に配膳車をぶつけて破損させた。	①破損した箇所の修理を業者に依頼する。 ②会議にて、配膳車の出し入れについての注意事項を周知徹底する。 ③毎月の部署会議にて、配膳車の取扱いに問題がないか確認していく。
H24.6.25	事務	-	-	-	利用料金過誤請求	負担段階2段階の施設入居顧客A氏の平成23年10月から平成24年5月の利用料金を負担段階4段階の金額で請求した。	職種間で確認が必要な顧客の情報を共有する様式を作成し、責任の所在を明確にして確認業務を確実に行う。
H24.6.25	相談	-	-	-	利用料金過誤請求	負担段階2段階の施設入居顧客A氏の平成23年10月から平成24年5月の利用料金を負担段階4段階の金額で請求した。	職種間で確認が必要な顧客の情報を共有する様式を作成し、責任の所在を明確にして確認業務を確実に行う。
H24.6.28	地域包括	-	-	-	過誤請求	平成23年8月、介護予防訪問介護(Ⅲ)を利用した顧客M氏の実績を、介護予防訪問介護(Ⅱ)を利用したと誤った情報を請求業務担当職員に伝えた為、過誤請求をした事が発覚し国保連に再請求を行う事になった。	①T訪問介護事業所が受理すべきだった処遇改善交付金の支払いを行う。 ②平成23年8月分の再請求事務を実施する。 ③請求業務を行う上で必要な確認事項をチェック項目としたチェック表を作成し毎月の請求業務時に使用する。
H24.6.28	事務	-	-	-	過誤請求	平成23年8月、介護予防訪問介護(Ⅲ)を利用した顧客M氏の実績を、介護予防訪問介護(Ⅱ)を利用したと誤った情報を請求業務担当職員に伝えた為、過誤請求をした事が発覚し国保連に再請求を行う事になった。	①T訪問介護事業所が受理すべきだった処遇改善交付金の支払いを行う。 ②平成23年8月分の再請求事務を実施する。 ③請求業務を行う上で必要な確認事項をチェック項目としたチェック表を作成し毎月の請求業務時に使用する。
H24.6.30	地域包括	-	-	-	車輛事故	公用車を運転中、交差点でバイクと接触事故を起こした。	①保険会社と調整を図り、事故処理を行う。 ②事故発生時の詳細を部署内へ周知すると共に、今後の運転時の留意点について話し合う。 ③部署会議にて公用車を運転する際の注意事項を確認し、毎月の部署会議にて周知徹底する。
H24.8.11	豊後3階	女	82	3	転倒事故	ラウンジ洗面所前で転倒。「後頭部裂傷」にて縫合処置施行。	①洗面所を使用する時以外は洗面所を安全な方法で隠しておく。 ②見守りを徹底し、洗面所に近づいた場合は別の場所へ誘導する。 ③事故発生内容と原因について部署職員に周知し、今後の対応法・危険性等を部署会議にて検討する。 ④転倒の危険性について個別ケア記録表に入力し、モニタリング・サービス計画に繋げる。

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H24.8.11	豊後2階	女	90	4	骨折事故	何らかの負荷がかかり、「左大転子部骨折」にて入院となる。	①リハビリ、身体介護については退院後の状態に合わせ、医師の指示のもと対応を行う。 ②臥床時は定期的に巡回し危険な動きがないか確認し、センサーの電源、着床ランプの確認を行う。 ③骨折の再発リスクなどについて部署会議にて検討する。 ④同様の介護事故が発生することの無い様、危険性などを個別ケア記録表へ入力し、モニタリング・サービス計画策定に繋げる。
H24.8.20	5丁目2番館	-	-	-	不適合改善 終了期間超過	5月9日に発生した不適合改善が8月20日に終了した。改善終了までに3ヶ月以上の期間が経過した。	①リーダー業務を全てあらいだし、自主評価表に基づく業務チェック表を作成する。 ②業務実施方法等で理解できない事が発生した場合は、他のリーダーに相談したり上司に指示をあおぐ等、問題を放置せず速やかに解決できるよう努める。
H24.8.20	事務	-	-	-	予算管理 業務ミス	3月31日付で退職した地域包括支援センター職員の退職金の予算を組んでいなかった。	予算作成指示者と会計担当職員の双方が確認できる予算作成指示簿を作成する。
H24.10.17	2丁目2番館	男	86	4	骨折事故	ソファから立ち上がった時にバランスをくずし転倒。「左大腿骨頸部骨折」にて入院となる。	①ソファへ援助し職員が付き添えない場合は、チェアセンサーを必ず使用する。再度、センサー使用顧客について転倒の危険性と対処方について検討する。 ②転倒の危険性について個別ケア記録に入力を行い、モニタリング・サービス計画へ繋げる。
H24.10.30	2丁目1番館	女	90	4	骨折事故	居室で転倒し骨折。「右上腕部顆上骨折」にてギブス固定処置施行。	①同様の転倒事故を未然に防ぐ為、危険が予測される顧客については個別ケア記録にて危険性の入力を実施し必要のある顧客は、モニタリング・サービス計画に反映させる。 ②自力歩行可能な顧客を対象に生活動作に配慮したリスク予測をしながら居室環境の整備を実施する。その際本人より十分聞取りを行う。 又、個別ケア記録にて個々の危険性について記録を残し、根拠に基づいた環境整備を実施する。
H24.12.24	通所介護	女	90	支2	骨折事故	他顧客のシルバーカーにつかまったところバランスを崩し転倒。「左大腿骨頸部骨折」にて入院となる。	①転倒事故に繋がる恐れのある障害物や環境に留意しながらフロア内の巡視を強化する。 ②顧客使用中の介護用品に関しては、未使用時はロックを行う。巡視時に確認を行い、現在使用している顧客にも周知する。
H25.1.5	訪問介護	-	-	-	物品紛失事故	備品の携帯電話を紛失した。	①使用していない時の携帯電話の置き場所を下記の通りに決める。事業所では机の右端に置く。 ②外出時と帰宅時は通勤用バッグに入れる。

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H25.3.11	3丁目2番館	女	90	4	骨折事故	何らかの負荷がかかった際の「右上腕骨近位端骨折」にて三角巾で固定し安静を保つ。	①類似する顧客はいないか部署内で検討し、個別ケア記録を行い、モニタリング・サービス計画につなげる。 ②看護処置が開始になり、普段とは異なる体位交換を行う時は、理学療法士にポジショニングの指示をあおぐ。